

株式会社アバールデータ

1. 会社概要

2. 2024年3月期 第2四半期（第65期） 業績報告・予想

[期間：2023年4月1日～2023年9月30日]

3. 今後の展開

2023年11月14日

1. 会社概要

株式会社アバールデータ

本社・町田事業所	東京都町田市
厚木事業所	神奈川県厚木市
海老名オフィス	神奈川県海老名市
設立	1959年8月
資本金	23億5,409万円
従業員	201名 (2023年9月30日 現在)

ISO9001認証取得 (1995年) / ISO1401認証取得 (2001年)

土地面積 6,426m² (町田 1,977m² / 厚木 4,449m²)

延床面積 8,172m² (町田 2,957m² / 厚木 5,215m²)



本社・町田事業所



厚木事業所



海老名オフィス

1959(昭和34年)		応用電子研究所を母体に東洋通信工業株式会社（東京・渋谷区）を設立
1979(昭和54年)		初の自社製品ポータブルタイプのPROMプログラム「Pecker」を開発・発表
1989(平成 元年)		社名を「株式会社アバールデータ」に変更
1991(平成 3年)		店頭売買銘柄として店頭登録（現 東京証券取引所スタンダード市場）
2002(平成14年)		光を使った高速通信モジュールの開発、販売開始
2011(平成23年)		カメラ高速通信規格CoaXPress製品開発、販売開始
2013(平成25年)		「医療機器製造業許可：一般」の許可取得
2015(平成27年)		近赤外線カメラ開発、販売開始
2017(平成29年)		アバール長崎の株式の一部を東京エレクトロンデバイス（株）に譲渡
2018(平成30年)		TS corporation(韓国) と合併会社「AVAL GLOBAL Co.,Ltd 」を設立
2022(令和 4年)		海老名オフィスを開設し、営業部が移転

組み込みモジュール

組み込み分野で業界を
リードする技術と製品



産業用ロボット、計測・通信機
で使用されます。

画像処理モジュール

国内トップクラスの実績



欠陥検知や位置決め等に
使用されます。

計測通信機器

産業用通信で最高速



機器間の高速通信に使用されます。



FPGAアクセラレータとして
データセンター等で使用されます。

「超高速」がキーワード



FPGAの高度な設計技術を保有

※FPGA (Field Programmable Gate Array)
回路構成の書き換えが可能なロジック・デバイス

光通信の**独自プロトコル**を保有

3つのノウハウを組み合わせ
高速・最適化されたシステム設計が得意



証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

A'VALue⁺

2. 2024年3月期 第2四半期（第65期）業績報告・予想

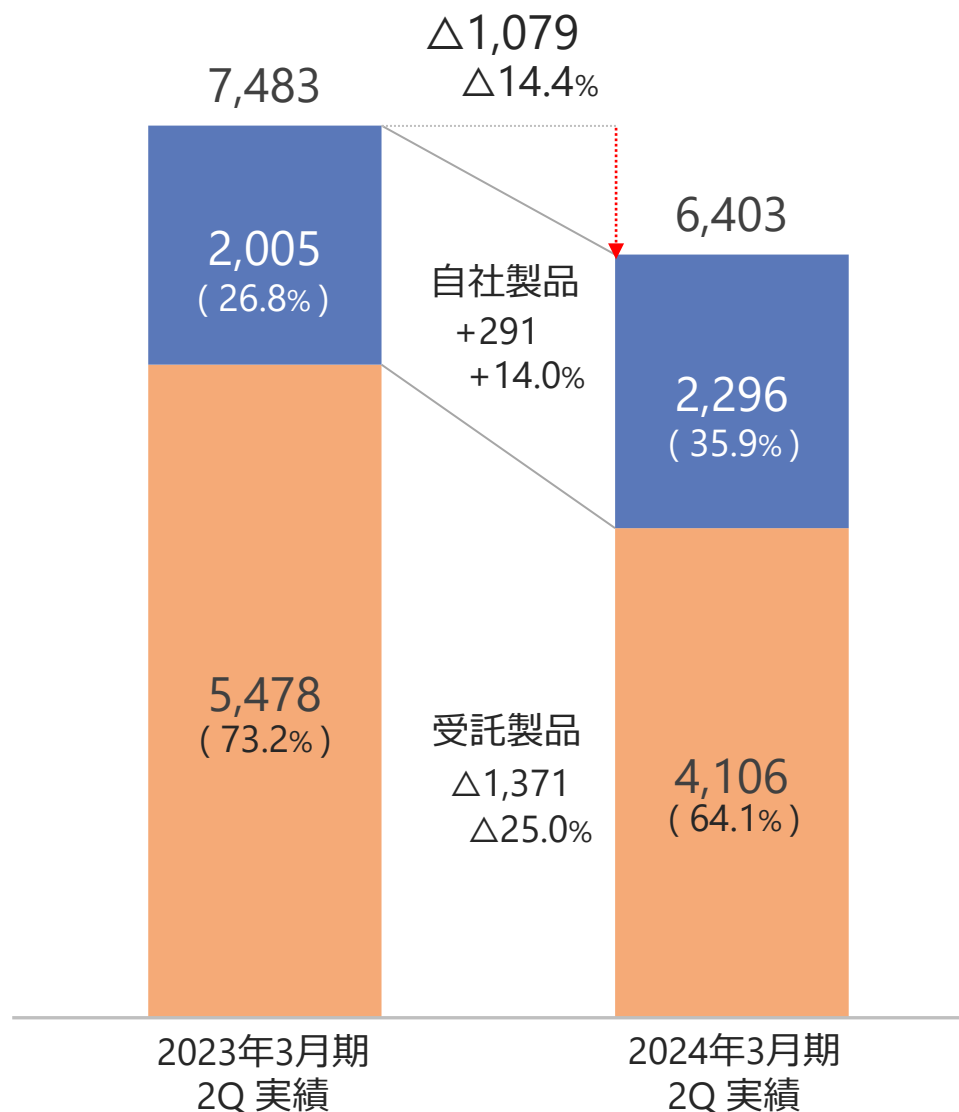
[期間：2023年4月1日～2023年9月30日]

- 半導体製造装置市場では、設備投資がサプライチェーン全体において調整局面を迎え、在庫調整が急速に広まるなど軟調となった。
- 当第2四半期累計期間は、市場高額部品の購入の減少に伴い、販売価格の売上高への転嫁は減少したが、前期よりの受注残の繰越もあり、概ね順調に推移した。
- 自社製品も、一部を除き部品入手難の解消が進み、堅調に推移した。

セグメント 品目		2024年3月期 第2四半期実績		2024年3月期 通期予想	
		売上	前年同期 増減率	売上	前年同期 増減率
自社製品	組込みモジュール	303	+ 47.5%	570	+ 9.4 %
	画像処理モジュール	951	△ 1.2%	2,000	+ 2.4 %
	計測通信機器	971	+ 22.5%	2,200	+ 18.1 %
	自社製品関連商品	71	+ 60.5%	80	△ 2.4 %
	小計	2,296	+ 14.0%	4,850	+ 9.7 %
	セグメント利益	740	+ 4.5%	-	
受託製品	半導体製造装置関連	3,392	△ 32.6%	6,750	△ 24.4 %
	産業用制御機器	472	+ 59.3%	930	+ 28.1 %
	計測機器	242	+ 66.1%	470	+ 49.2 %
	小計	4,106	△ 25.0%	8,150	△ 18.2 %
	セグメント利益	757	△ 1.0%	-	
売上合計		6,403	△ 14.4%	13,000	△ 9.7 %
営業利益		1,168	△ 0.7%	2,620	+ 9.3 %
経常利益		1,266	+ 2.0%	2,710	+ 8.6 %
当期純利益		919	+ 2.7%	5,558	+ 30.1 %

※1 セグメント利益合計1,497百万円と営業利益1,168百万円との差額329百万円はセグメントに属さない全社費用（一般管理費）

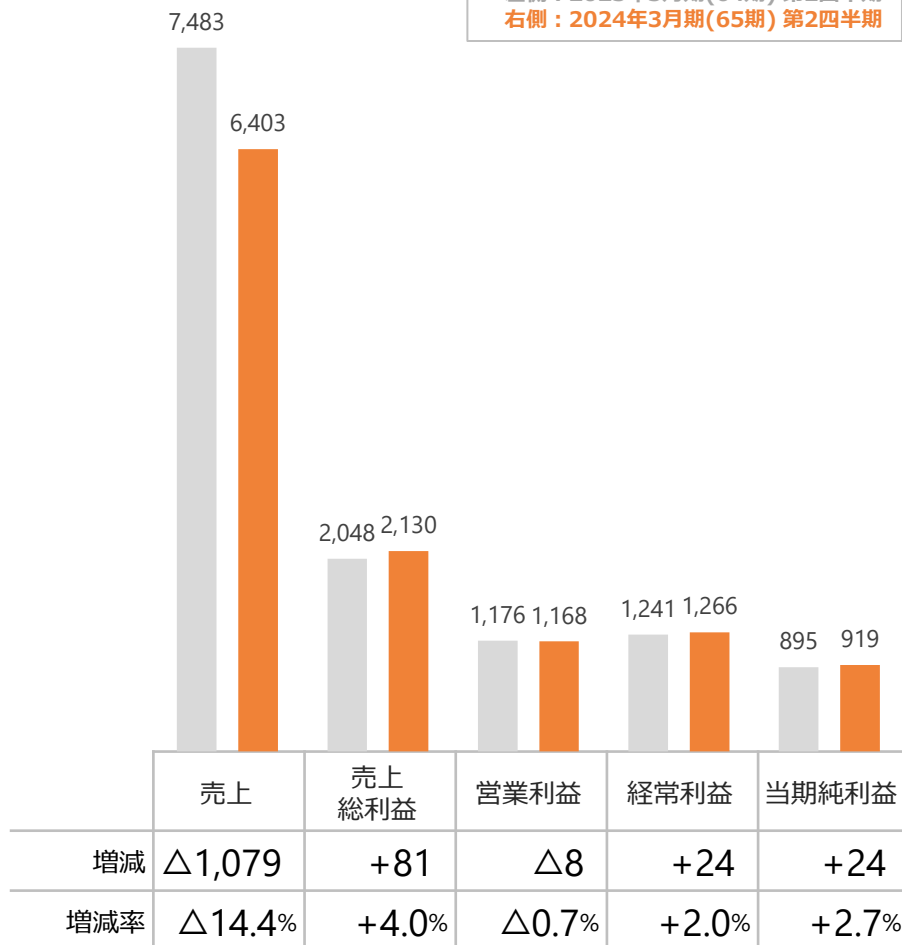
グラフ内の()はセグメント別
売上の構成比



前年対比

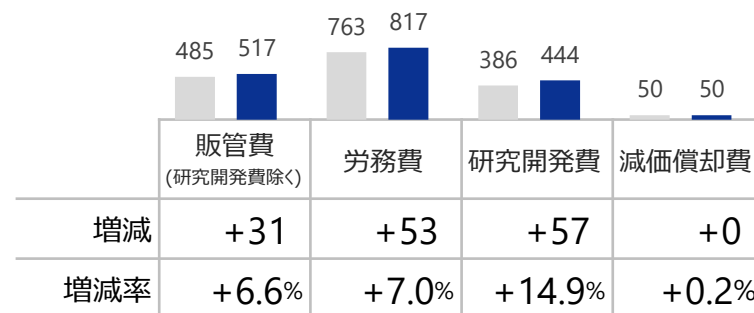
売上・利益

左側：2023年3月期(64期) 第2四半期
右側：2024年3月期(65期) 第2四半期

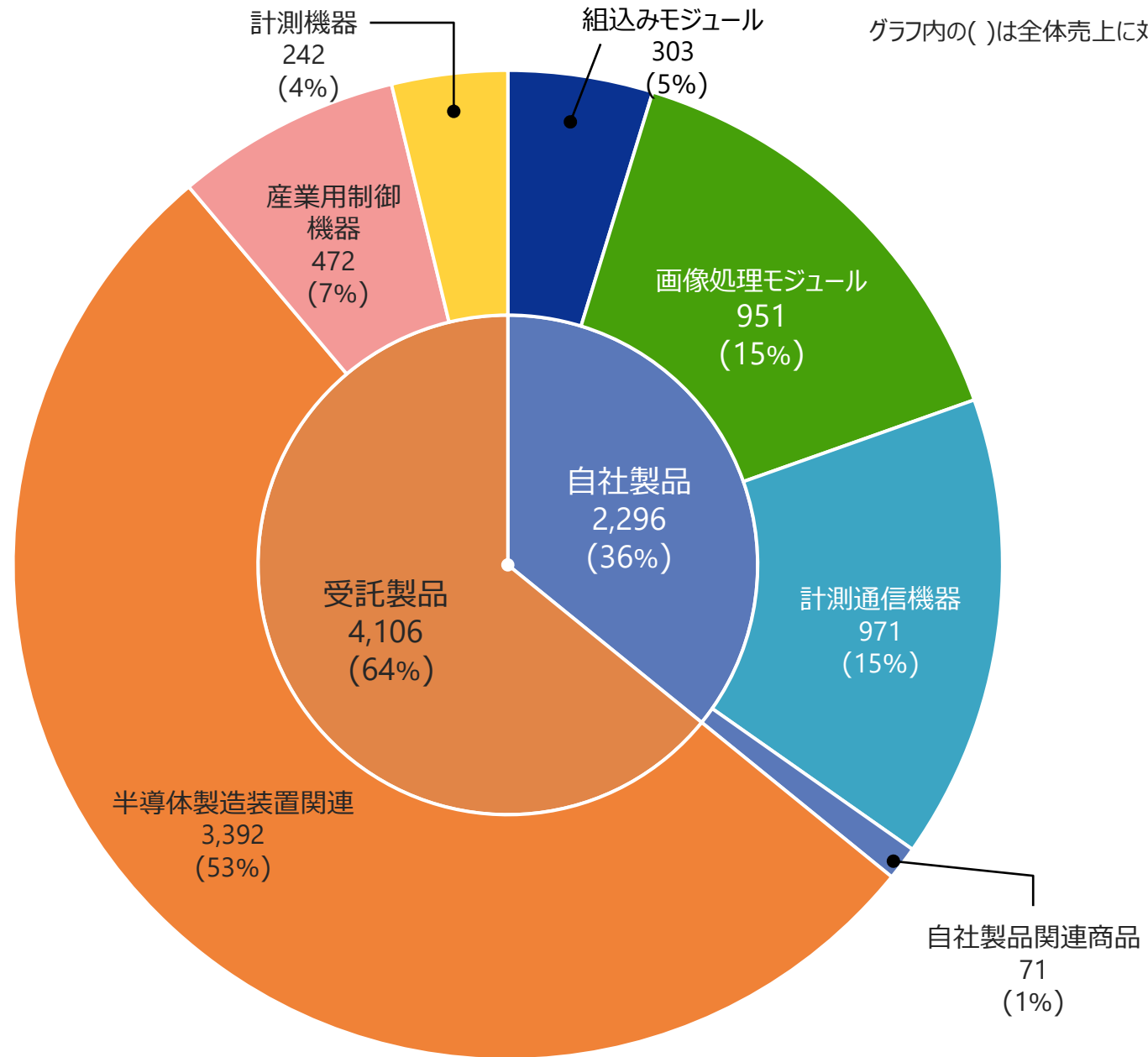


経費

左側：2023年3月期(64期) 第2四半期
右側：2024年3月期(65期) 第2四半期



グラフ内の()は全体売上に対する構成比



自社製品

組込みモジュール

医療機器関連及び半導体製造装置関連を中心に概ね堅調に推移。

➡ 売上高 303百万円（前年同期比 +97百万円 +47.5 %）

画像処理モジュール

一部製品において入手難の部品が一時的に供給されたこともあり、受注残の一部が消化されたことで全体として想定どおりで推移。

➡ 売上高 951百万円（前年同期比 △11百万円 △1.2%）

計測通信機器

一部顧客の回復の影響もあり、全体として堅調に推移。

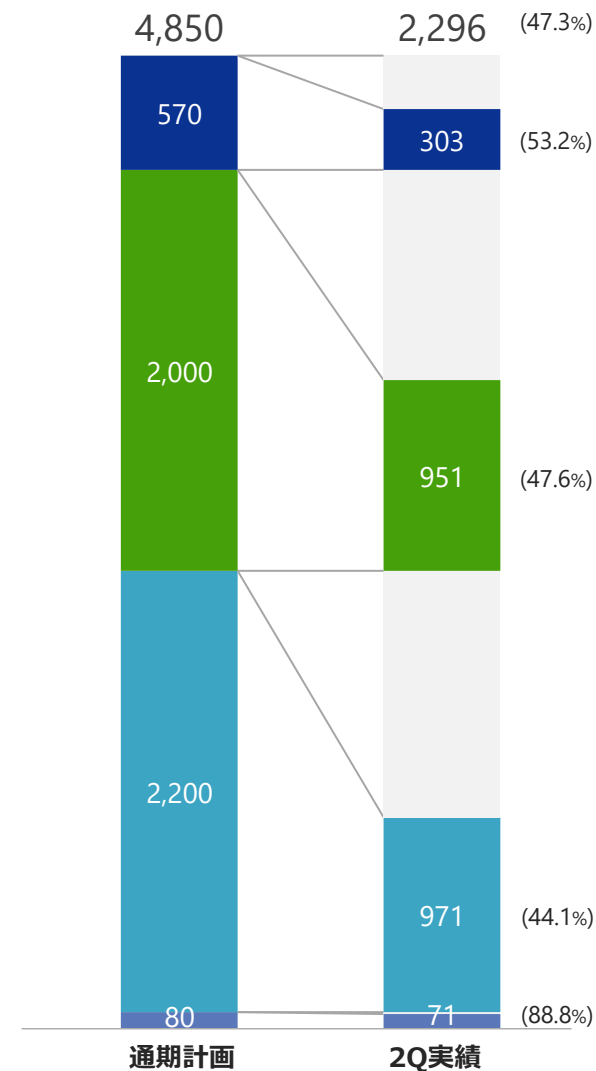
➡ 売上高 971百万円（前年同期比 +178百万円 +22.5%）

商品（自社製品関連）

自社製品同様、概ね堅調に推移。

➡ 売上高 71百万円（前年同期比 +26百万円 +60.5%）

※（）内の数値は
品目毎の進捗率



受託製品

● 半導体製造装置関連分野

高額部材の価格転嫁分は減少したものの、前期に引続き部材の供給難が一部解消されたことから、受注残の製品の完成、納入が進んだことにより、出荷全体として堅調に推移。

➡ 売上高 3,392百万円（前年同期比 △1,643百万円 △32.6%）

● 産業用制御機器分野

受注残の消化が進んだことにより、全体として想定どおりで推移。

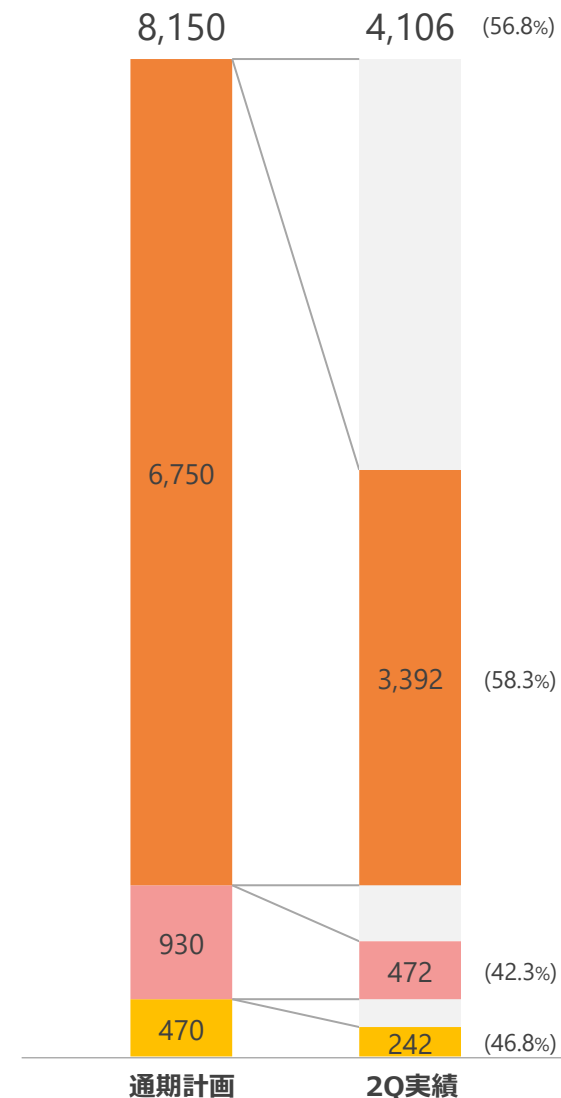
➡ 売上高 472百万円（前年同期比 +175百万円 +59.3%）

● 計測機器分野

一部顧客が増加基調となったこともあり、堅調に推移。

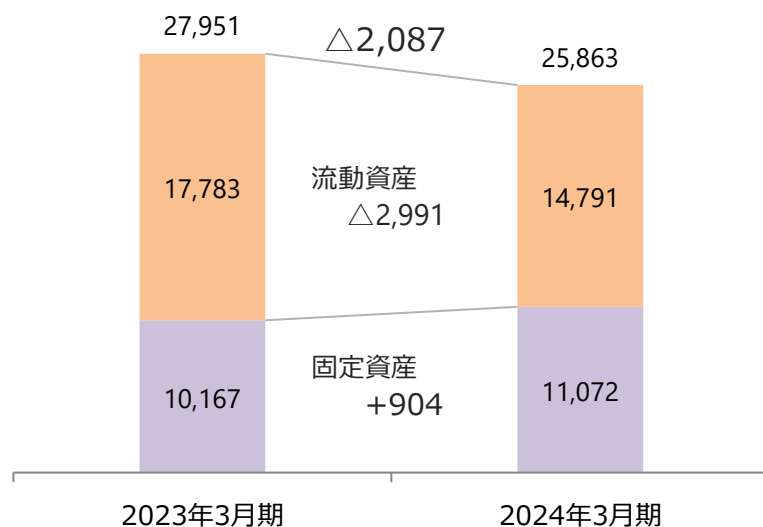
➡ 売上高 242百万円（前年同期比 +96百万円 +66.1 %）

※（ ）内の数値は
品目毎の進捗率

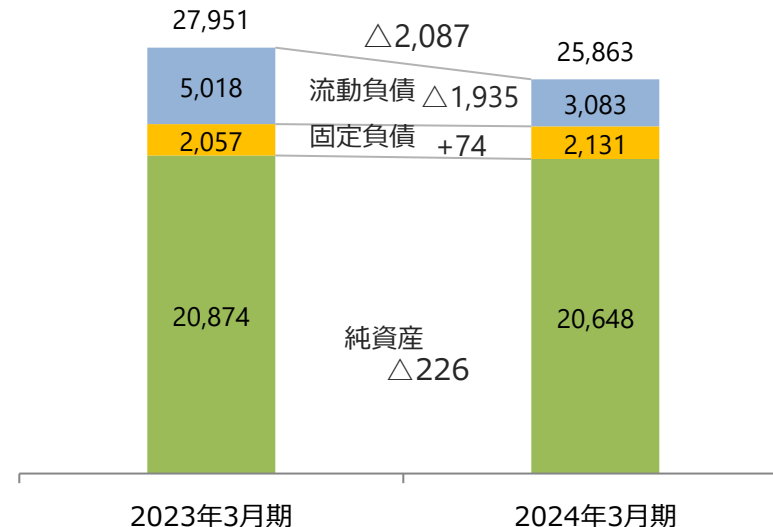


➤ 自己資本比率 79.8 %（5.1ポイントアップ）

資産の部



負債及び純資産の部

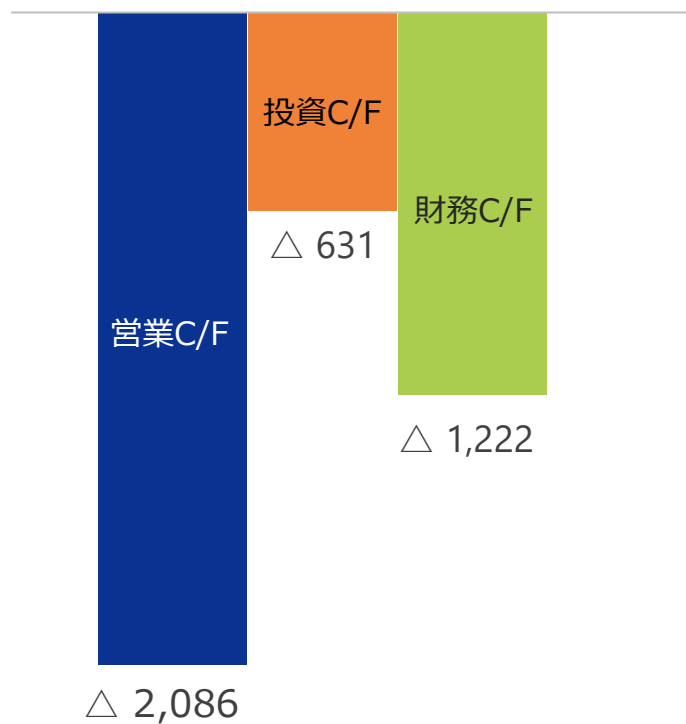


主な増減

流動資産	△ 2,991
現金及び預金	△ 3,940
原材料及び貯蔵品	628
売掛金	△ 159
固定資産	904
有形固定資産	643
投資有価証券	262

主な増減

流動負債	△ 1,935
支払手形・買掛金	△ 697
未払法人税等	△ 1,298
固定負債	74
繰延税金負債	74
純資産	△ 226
利益剰余金	△ 304
その他有価証券評価差額金	63



主なキャッシュフロー項目

営業活動によるC/F △2,086

税引前当期純利益 1,266

棚卸資産の増減 △ 992

法人税等の支払い △ 1,551

投資活動によるC/F △ 631

有形固定資産取得による支出 △ 455

フリーC/F △ 2,718

財務活動によるC/F △ 1,222

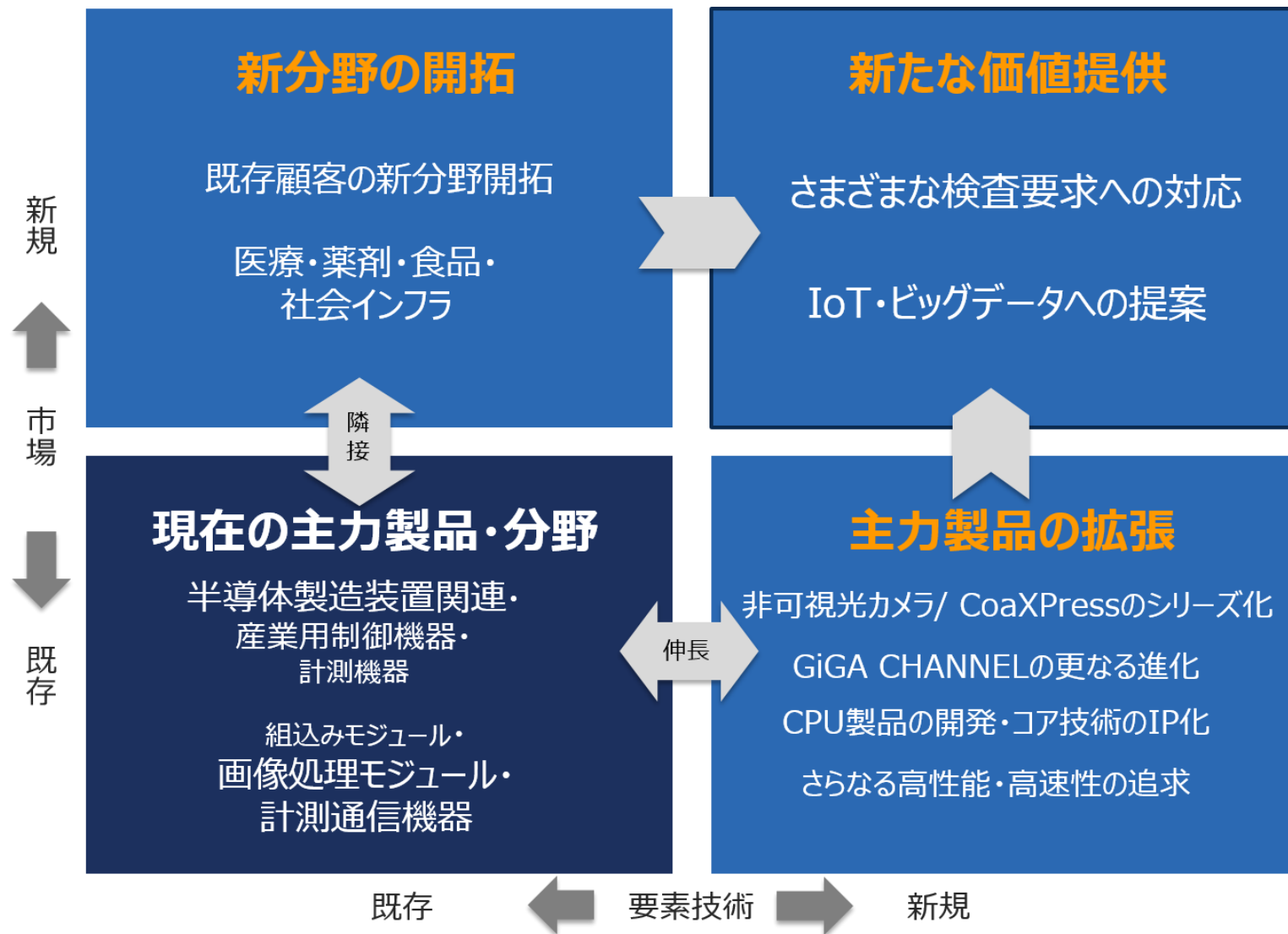
配当金の支払 △ 1,221

4. 今後の展開

SaaS

simple and speed

すべてにおいてシンプルに そして 迅速に



新たな価値提供

さまざまな検査要求への対応



ソニー製最新SWIRイメージセンサーを採用し、
可視領域から近赤外線領域までをカバー
(400nm~1700nmまでのワイドバンド対応)

従来の「ABA-013VIR」、「ABA-003VIR」に続き

- ・ ハイパースペクトルカメラ 「AHS-003VIR」
- ・ 次世代カメラインターフェース CoaXPress
「ABA-013VIR-CXP」

を発売し、シリーズ化を推進

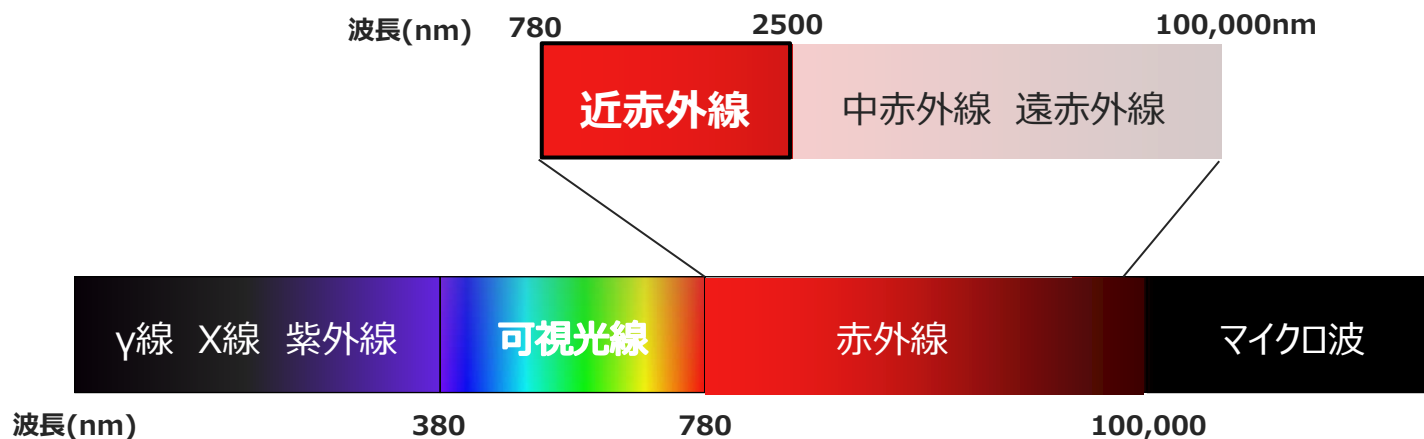


近赤外線の特徴

見えないものを、見ることができる

- ◆ 一般的なカメラではとらえることのできない光
- ◆ 被写体の成分の違いにより見え方が変わる

➡ 新たな検査環境の提供



非可視光カメラの用途

可視光では確認できない検査が可能

- ◆ 異物混入検出
- ◆ 農作物の痛み具合の選別
- ◆ パッケージの不具合検査
- ◆ 半導体（シリコンウェハやチップ）検査
- ◆ その他

例：チョコレートとグミの選別 ※水分の多いグミは黒く写る



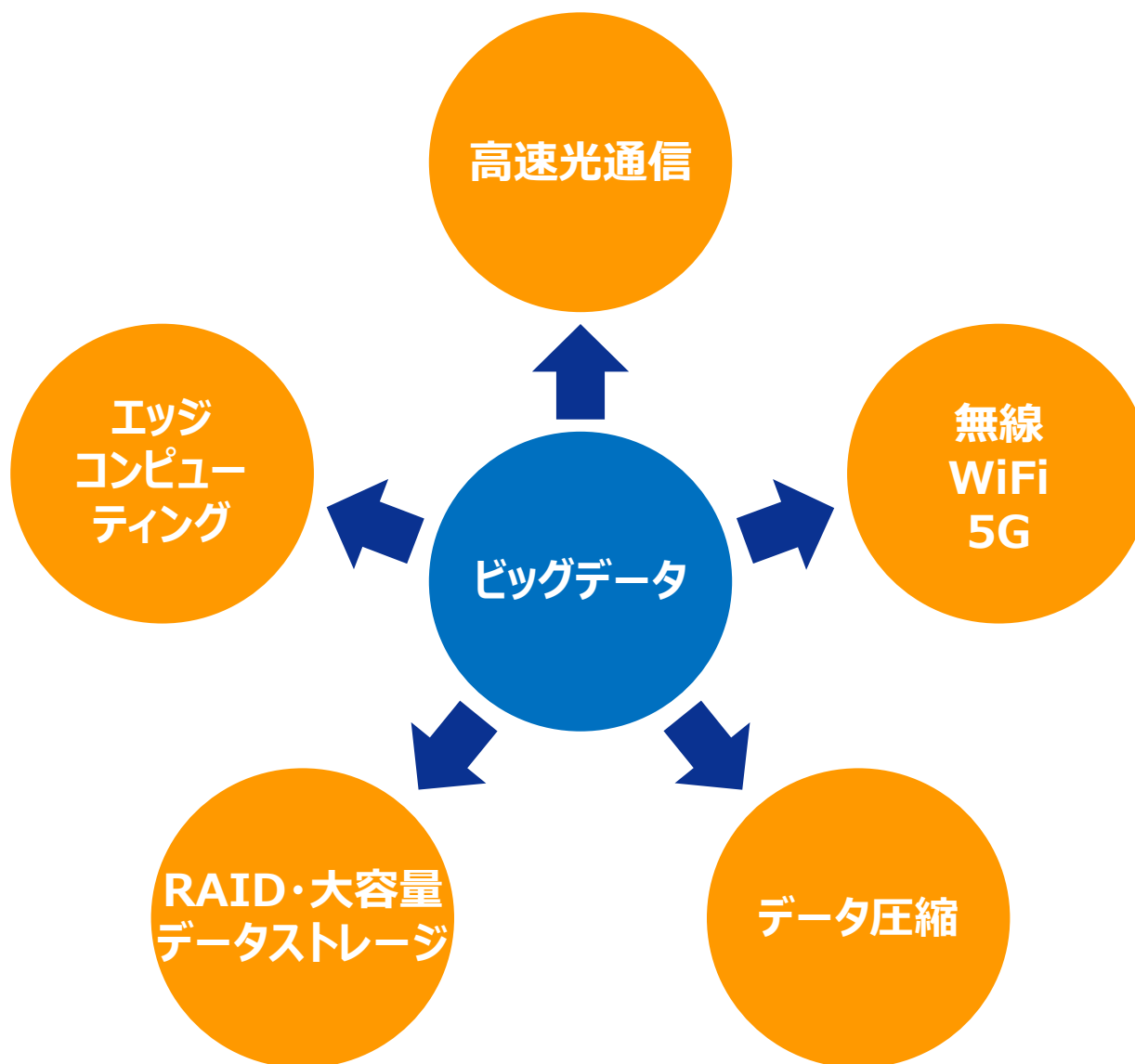
カラーカメラ



モノクロカメラ



近赤外線カメラ

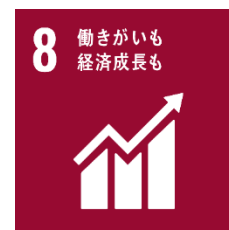


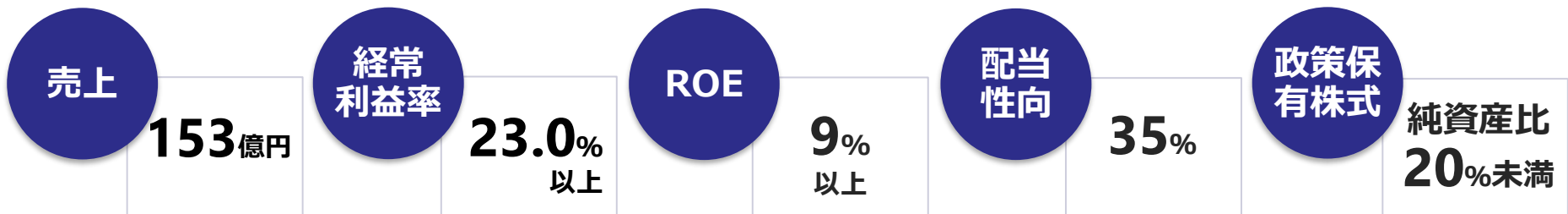
自社工場（厚木事業所）

- ◆ 設計と製造が一体となった総合品質
- ◆ 出荷後のトレーサビリティ（追跡調査可能）
- ◆ 少量多品種の対応



- ◆ お客様に価値を提供する製品開発
- ◆ 排出CO²削減・RoHS/REACH対応
- ◆ 働きやすい職場環境とワークライフバランス
- ◆ 社会貢献活動と災害復興支援
- ◆ コーポレートガバナンスの強化





（2025年3月期まで）

中期経営方針

- ◆ サステナビリティを推進し、社会の持続可能な発展に貢献する
- ◆ 攻めの経営による積極投資と固定費最適化を行い、更なる体質強化
- ◆ 市場の潜在ニーズを先取りし、お客様の装置の進化に貢献する
- ◆ 新分野および海外展開でビジネスを確立し、新たな成長の柱を構築する
- ◆ 品質・納期・コスト・環境対応で業界トップの生産体制を実現
- ◆ 政策保有株式を純資産比の縮減を進め、資本効率を改善する

Cash In

3年間の累計利益
内部留保
約50億円

政策保有株式売却利益
約60億円

Cash Out

成長投資
65億円程度

研究開発投資
設備投資
M&A 他

株主還元
45億円程度
配当性向35%
機動的に自己株式取得も検討

山梨R&Dセンター建設

将来に向けた研究開発拠点の設置

- ・所在地 : 山梨県韮崎市穂坂町宮久保
- ・延床面積 : 1,570㎡
- ・構造 : 鉄骨造／地上2階建
- ・着工 : 2023年6月
2024年5月完成(予定)
- ・建設費用 : 約11億円



厚木事業所増築

生産スペースの拡大により一層の生産強化

- ・所在地 : 神奈川県厚木市金田1041
- ・延床面積 : 1,272㎡
- ・構造 : 鉄骨造／地上4階建
- ・着工 : 2023年1月、9月完成
- ・建設費用 : 約5億円



利益還元に関する考え方

- ◆ 安定的な配当にも考慮
- ◆ 配当性向35%を基本

配当の実施状況

年 度	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想
配当(円)	64	78	85	245※	317※
配当性向	35.3%	35.2%	34.9%	35.3%	35.0%

※2023年3月期実績及び2024期3月期予想の配当原資にはそれぞれ政策保有株式の売却益が含まれております。

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等は、本資料発表日現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に関わる仮定を前提としております。

実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値とは異なる可能性があるため、本資料のみに全面的に依拠することは控えていただきますようお願い申し上げます。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。